

E. スポーツボランティアの 現在地とその特徴

立教大学 コミュニティ福祉学部

教授 松尾 哲矢

2000年に策定されたスポーツ振興基本計画では「スポーツボランティア」の言葉は1カ所しか明記されていなかった。しかし、今回のスポーツ基本計画（2012）では、14カ所に急増し、スポーツ振興におけるスポーツボランティアへの関心の高さが改めて確認され、その多様な役割が期待される。ところが図6-1に示したとおり、スポーツボランティアの実施率は、2000年から7%前後でほぼ横ばいの状況が続き、政策の期待に応えられる状況にはまったくない。そこで、より詳細にスポーツボランティアの実態を把握するために、本項では新たなコンセプト「無自覚的スポーツボランティア」を創案し、その活動状況と特徴について分析した。本項でいう、無自覚的スポーツボランティアとは、行っている行為がボランティアにあたるにもかかわらず、自身はその活動をスポーツボランティアとして自覚していない人々を指している。

E-1 無自覚的スポーツボランティアの発見

2010年調査まではスポーツボランティアの実施の有無をたずね、「ある」と回答した者にその活動内容を質問した。今回の調査では、これらの質問に加えて、全員を対象として表E-1にあるスポーツボランティアに類する活動を具体的に示し、それぞれに実施の有無をたずねた。

その結果、スポーツボランティアを「実施していない」と回答した者（1,846人）のうち、所属するスポーツ団体やクラブ等での活動（自身や自身の子どものためだけの活動を除く）として「練習や大会等での送迎」9.8%、「行事の準備や片付け、事務作業」8.1%、「練習や大会等での飲料や弁当の準備」6.0%など、また地域のスポーツイベントやスポーツ行事に関する活動として「会場の準備や撤収」5.2%や「飲料や食事の準備」2.7%など、自覚することなくスポーツボランティアに位置づけられる活動をしている実態がわかった（表E-2）。

すなわち、表E-2に示すこれらの活動を1つ以上の項目で実施したと回答した者は『無自覚的スポーツボランテ

【表E-1】スポーツボランティアの役割と範囲

<p>クラブ・団体ボランティア (クラブ・スポーツ団体) <定期的活動></p>
<p>ボランティア指導者 (監督・コーチ、指導アシスタント)</p>
<p>運営ボランティア (クラブ役員・幹事、世話係、運搬・運転、広報、データ処理、競技団体役員など)</p>
<p>イベントボランティア (地域スポーツ大会、国際・全国スポーツ大会) <不定期的活動></p>
<p>専門ボランティア (審判、通訳、医療救護、大会役員、データ処理など)</p>
<p>一般ボランティア (給水・給食、案内・受付、記録・掲示、交通整理、運搬・運転、ホストファミリーなど)</p>
<p>アスリートボランティア</p>
<p>トップアスリート・プロスポーツ選手 (ジュニアの指導、施設訪問、地域イベントへの参加など)</p>

資料：笹川スポーツ財団「スポーツ白書」(2011)

ニア』となる。その割合を全体に換算すると、図E-1に示すように全体の20.0%にのぼる。この割合にスポーツボランティアの7.7%を加えると、27.7%が実際には何らかのスポーツボランティアを実施しており、全体の約3割に達する。

さらに、無自覚的スポーツボランティアを除き、過去1年間にまったく実施していない非実施者のうち、今後、スポーツボランティアを行いたい（「ぜひ行いたい」+「できれば行いたい」）と回答した潜在的スポーツボランティア

の割合は6.4%であった。この割合を加えると全体の34.1%の者が、スポーツボランティア、無自覚的スポーツボランティアまたは潜在的スポーツボランティアとなる。

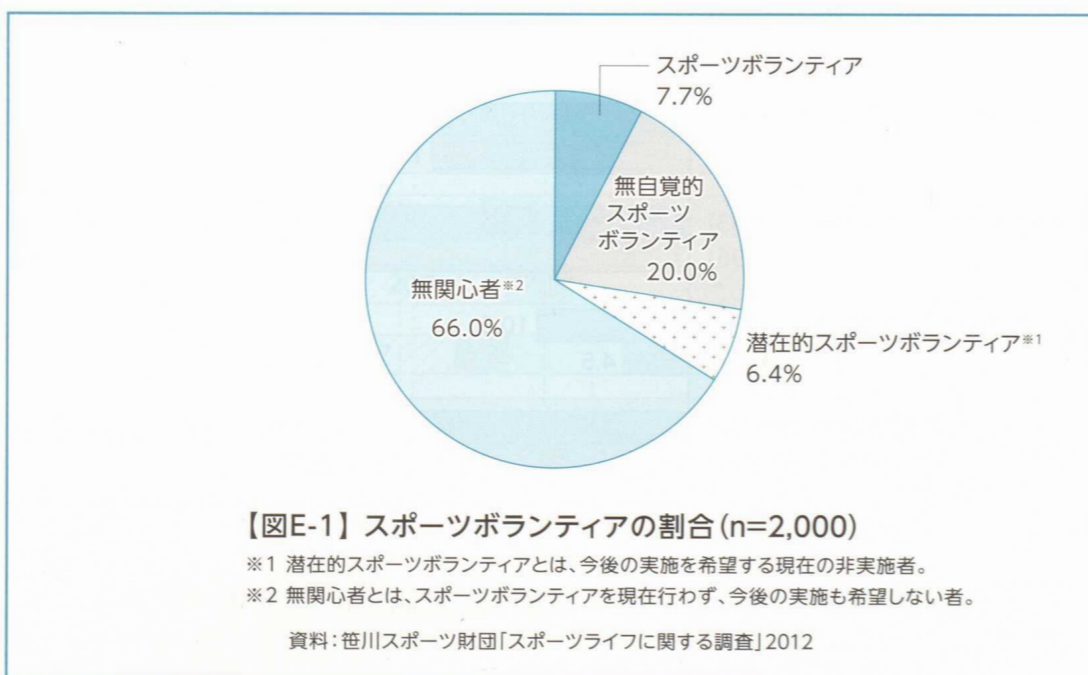
この結果は、スポーツボランティアが一定の拡がりを見せている実態を示し注目される。同時にスポーツボランティアという用語が未だ限定的に捉えられている現況を示しており、スポーツボランティアという用語の周知とともに、活動内容から実施状況を把握する必要がある。

【表E-2】 スポーツボランティア非実施者の地域・クラブ等での活動実態(全体)

	活動内容	n	実施率(%)
所属スポーツ団体・クラブ等	練習や大会等での送迎	1,842	9.8
	練習や大会等での飲料や弁当の準備	1,841	6.0
	活動場所・施設の予約・手配	1,841	3.6
	指導や審判員の補助	1,840	2.9
	役員や会計係等としての会の運営	1,837	3.8
	行事の準備や片付け、事務作業	1,840	8.1
	ウェブサイトの更新やチラシの作成	1,841	1.0
	その他の活動	1,836	5.1
地域のスポーツイベントやスポーツ行事	受付や案内	1,845	2.4
	飲料や食事の準備	1,845	2.7
	会場の準備や撤収	1,845	5.2
	駐車場等での車の誘導	1,845	1.6
	その他の活動	1,845	3.7

注) 「あなたは、過去1年間に何らかのスポーツにかかわるボランティア活動を行ったことがありますか。」という問いに対して「ない」と回答した者の活動内容。

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2012



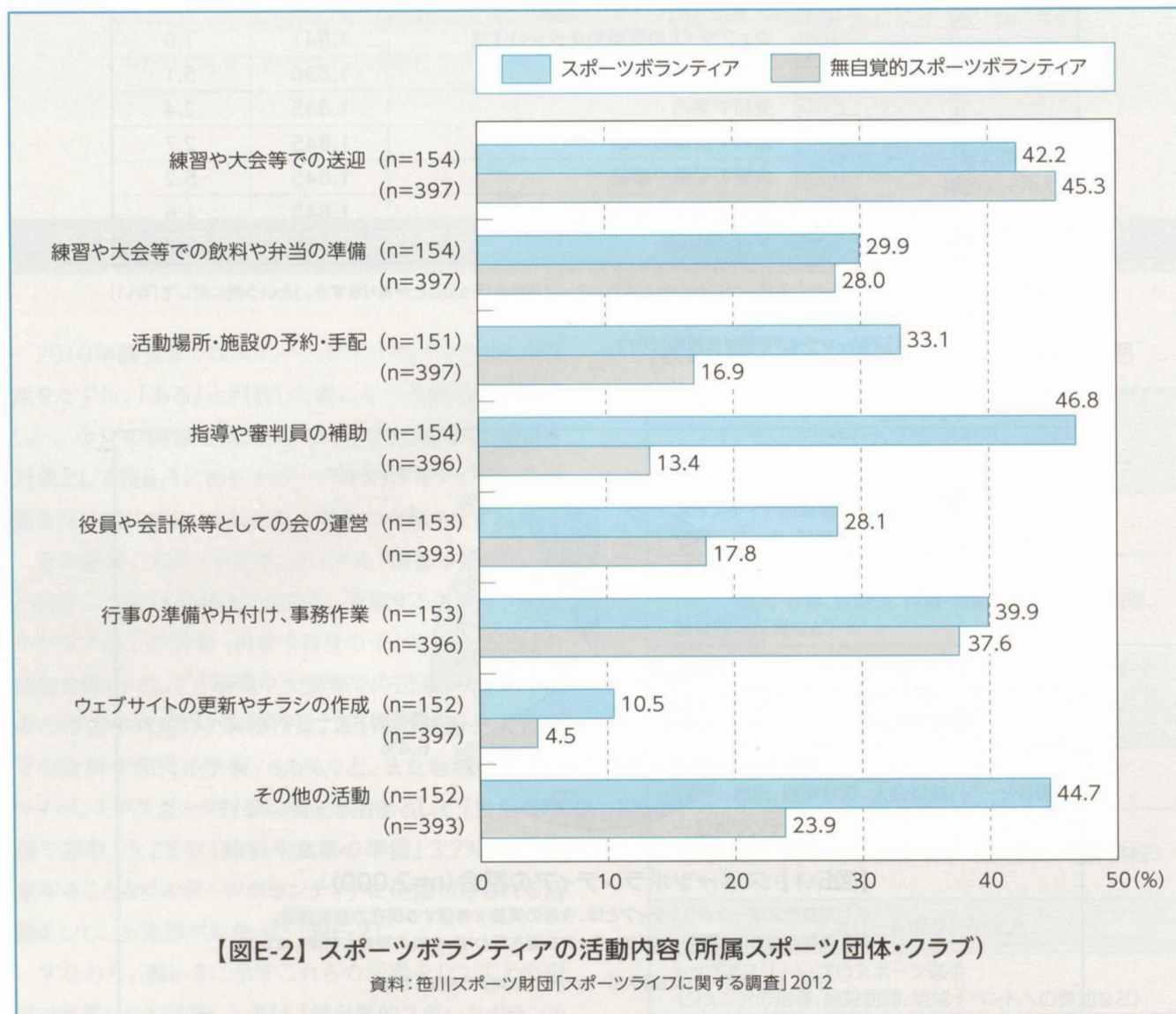
E-2 無自覚的スポーツボランティアの活動内容

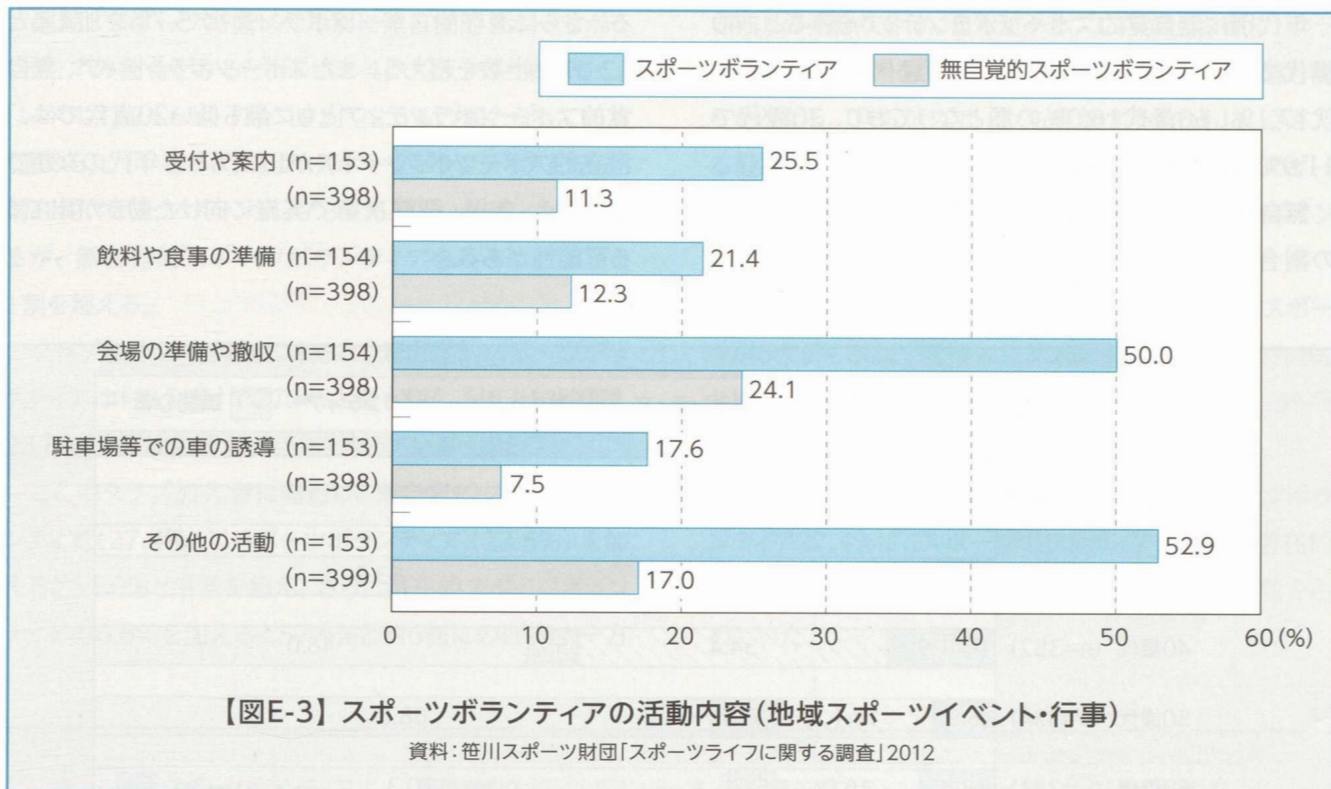
次にスポーツボランティアと無自覚的スポーツボランティアをそれぞれ母集団として具体的な活動の実施率（複数回答）を比較した（図E-2、図E-3）。

まず無自覚的スポーツボランティアの活動内容をみると、所属するスポーツ団体やクラブ等では、「練習や大会等での送迎」が45.3%と最も高く、次いで「行事の準備や片付け、事務作業」37.6%、「練習や大会等での飲料や弁当の準備」28.0%となっている。また地域のスポーツイベントやスポーツ行事では「会場の準備や撤収」が24.1%と最も高い。これらの活動内容は、スポーツボランティアとしてあまり自覚されないままに行われている活動内容となっている。

さらに、いずれの項目においてもスポーツボランティアと無自覚的スポーツボランティアの双方ともに実施しており、これらの活動が無自覚的スポーツボランティアのみに特有の活動ではない点は注目される。

スポーツボランティアと無自覚的スポーツボランティアとの双方の実施率を比較すると、ほとんどの項目においてスポーツボランティアの割合が高い。しかし、所属団体やクラブ等における「練習や大会等での送迎」については無自覚的スポーツボランティアの実施率が45.3%を占め、スポーツボランティアの42.2%を超えるという特徴がみられた。

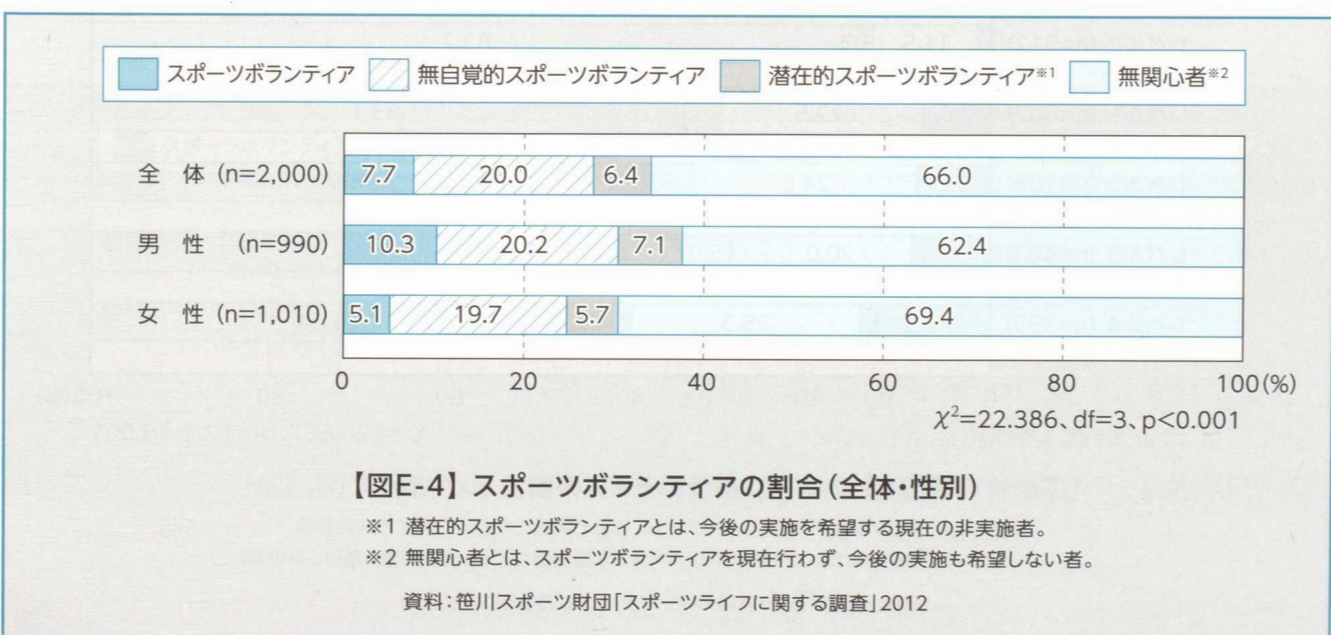




E-3 無自覚的スポーツボランティアの実施状況

スポーツボランティアと無自覚的スポーツボランティアの割合を性別にみると、スポーツボランティアでは男性10.3%、女性5.1%と男性は女性の約2倍を占めるが、無自覚的スポーツボランティアでは男性20.2%、女性19.7%と性別で大きな違いはみられない(図E-4)。

これらの割合に、潜在的スポーツボランティアを加えると、男性では37.6%、女性では30.5%となり、男性が約7ポイント高い。男性の約4割がスポーツボランティアまたは無自覚的スポーツボランティア、潜在的スポーツボランティアである点は注目される。

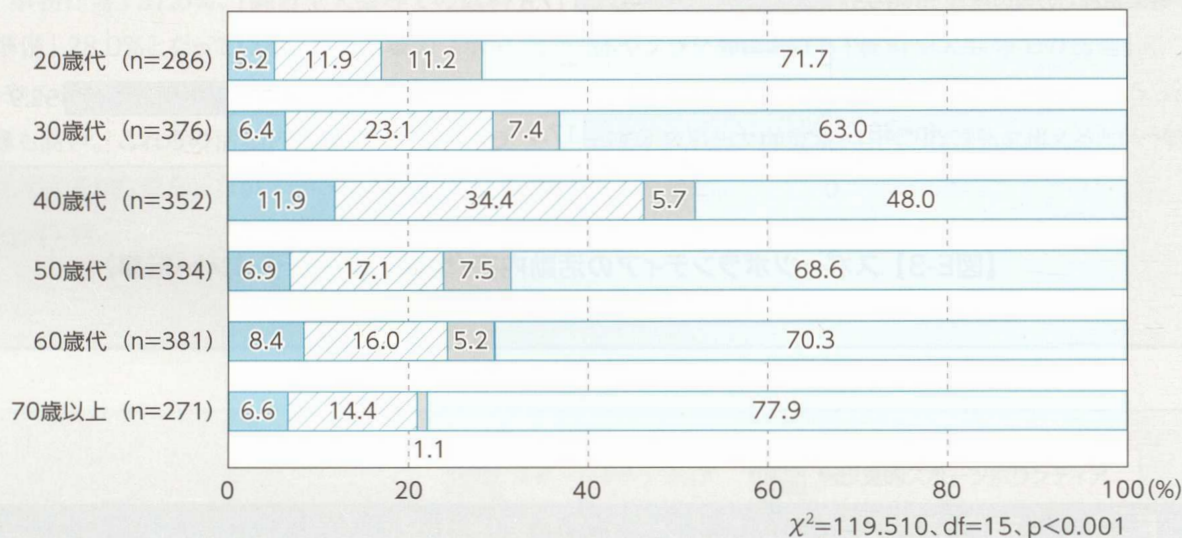


年代別に無自覚的スポーツボランティアをみると、40歳代で34.4%と最も高く、次いで30歳代23.1%、50歳代17.1%、60歳代16.0%の順となっており、20歳代で11.9%と最も低い(図E-5)。

無自覚的スポーツボランティアにスポーツボランティアの割合を加えると、40歳代では46.3%と約半数にのぼ

る。さらに潜在的スポーツボランティア5.7%を加えると52.0%と半数を超える。またスポーツボランティア、無自覚的スポーツボランティアともに最も低い20歳代では、潜在的スポーツボランティアが11.2%と各年代のなかで最も高く、今後、契機次第で実施に向けた動きが出てくる可能性がある。

■ スポーツボランティア ■ 無自覚的スポーツボランティア ■ 潜在的スポーツボランティア*1 ■ 無関心者*2

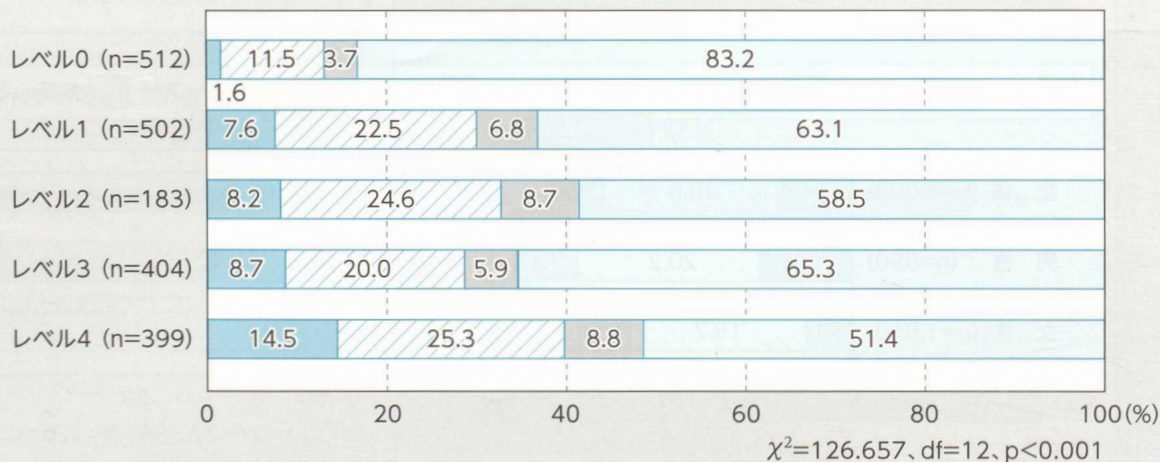


【図E-5】スポーツボランティアの割合(年代別)

*1 潜在的スポーツボランティアとは、今後の実施を希望する現在の非実施者。
*2 無関心者とは、スポーツボランティアを現在行わず、今後の実施も希望しない者。

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2012

■ スポーツボランティア ■ 無自覚的スポーツボランティア ■ 潜在的スポーツボランティア*1 ■ 無関心者*2



【図E-6】スポーツボランティアの割合(レベル別)

*1 潜在的スポーツボランティアとは、今後の実施を希望する現在の非実施者。
*2 無関心者とは、スポーツボランティアを現在行わず、今後の実施も希望しない者。

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2012

運動・スポーツ実施レベル別に無自覚的スポーツボランティアの割合をみると、「レベル4」で25.3%と最も高く、「レベル2」24.6%、「レベル1」22.5%の順となっている(図E-6)。「レベル0」では、スポーツボランティア1.6%、潜在的スポーツボランティア3.7%と低い数値となっているが、無自覚的スポーツボランティアをみると11.5%と1割を超える。

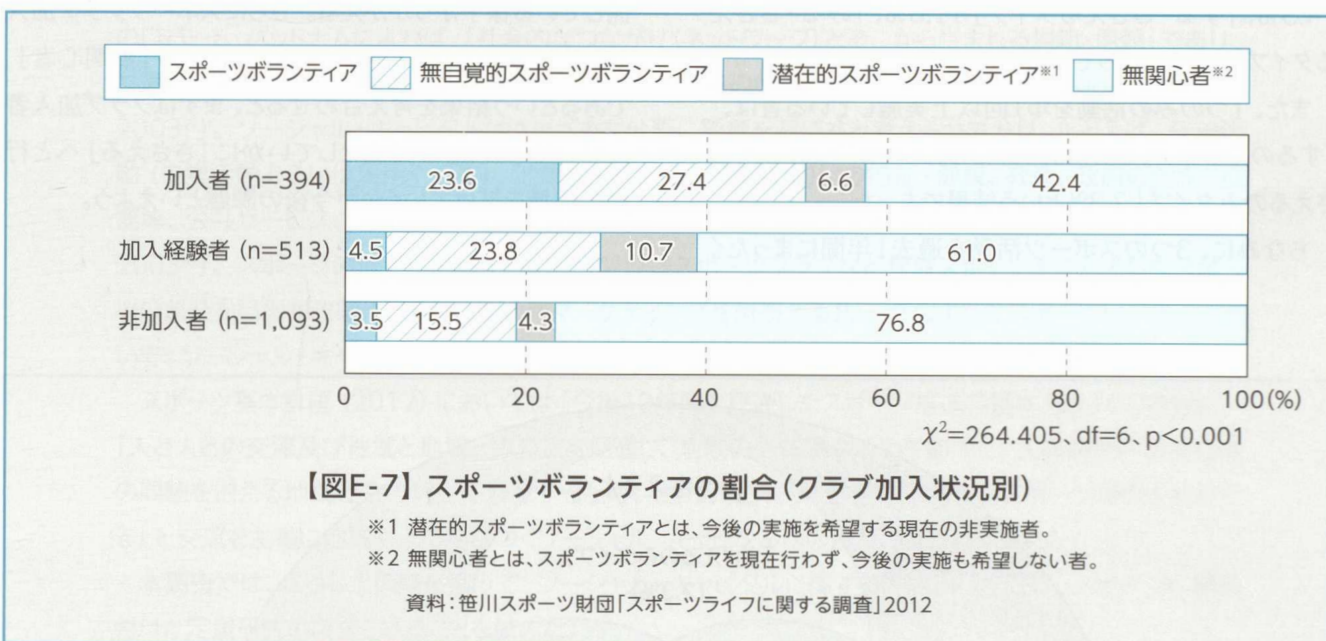
クラブ加入の有無別にみると、無自覚的スポーツボランティアは「加入者」で27.4%と最も高く、「加入経験者」23.8%、「非加入者」15.5%となっている(図E-7)。

ここでクラブ加入者に着目し、無自覚的スポーツボランティア(27.4%)にスポーツボランティア(23.6%)を加えると51.0%と半数を超え、さらに潜在的スポーツボランティアの6.6%を加えると57.6%と約6割にのぼる。一方

で残りの4割の者は、自らがクラブに所属しながら、クラブ運営や行事等をささえる経験を有していない実態も明らかとなる。自らがスポーツを実施するとともに、ささえる経験をいかに拡げていけるのかが、より豊かなスポーツライフ(クラブライフ)の構築という点で今後のポイントとなろう。

直接スポーツ観戦の有無別にみると、無自覚的スポーツボランティアは、「直接スポーツ観戦ある」者では27.4%と約3割を占め、「直接スポーツ観戦ない」者の16.5%と比較して約11ポイント高くなっている(図E-8)。

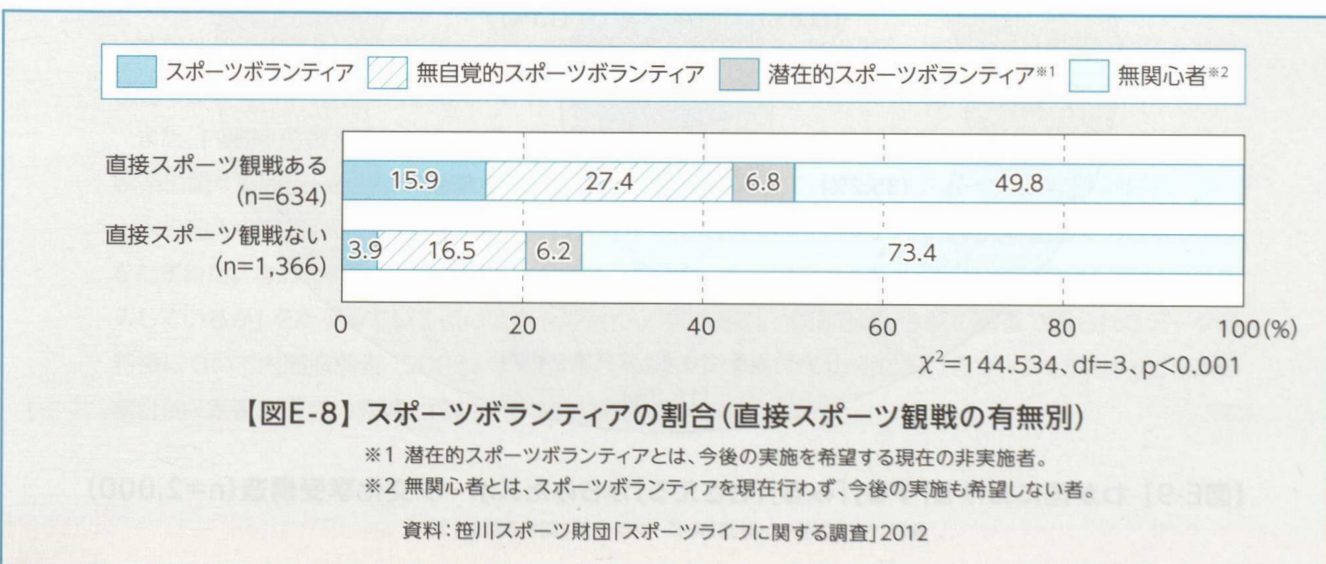
「直接スポーツ観戦ある」者の無自覚的スポーツボランティア27.4%に、スポーツボランティア15.9%、潜在的スポーツボランティア6.8%を加えると50.1%と半数を占めていた。



【図E-7】スポーツボランティアの割合(クラブ加入状況別)

※1 潜在的スポーツボランティアとは、今後の実施を希望する現在の非実施者。
 ※2 無関心者とは、スポーツボランティアを現在行わず、今後の実施も希望しない者。

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2012



【図E-8】スポーツボランティアの割合(直接スポーツ観戦の有無別)

※1 潜在的スポーツボランティアとは、今後の実施を希望する現在の非実施者。
 ※2 無関心者とは、スポーツボランティアを現在行わず、今後の実施も希望しない者。

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2012

E-4 「する」「みる」「ささえる」活動状況

スポーツを「する」「みる」「ささえる」という3つの活動を、個別ではなくトータルに把握するとどのような活動状況にあるのだろうか。「ささえる」についてはスポーツボランティアに無自覚的スポーツボランティアを加え、「みる」は直接スポーツ観戦とし、「する」「みる」「ささえる」の現状を図E-9に示した。

3つのスポーツ活動をすべて、年に1回以上実施している「する・みる・ささえるタイプ」は成人全体の12.7%であり、これらの者は3つのスポーツ活動をトータルに享受するスポーツライフを有しているといえる。

次に、この3つのスポーツ活動のうち2つの活動を年1回以上実施している者については、「する・みるタイプ」14.5%、「する・ささえるタイプ」11.6%、「みる・ささえるタイプ」1.1%となっている。

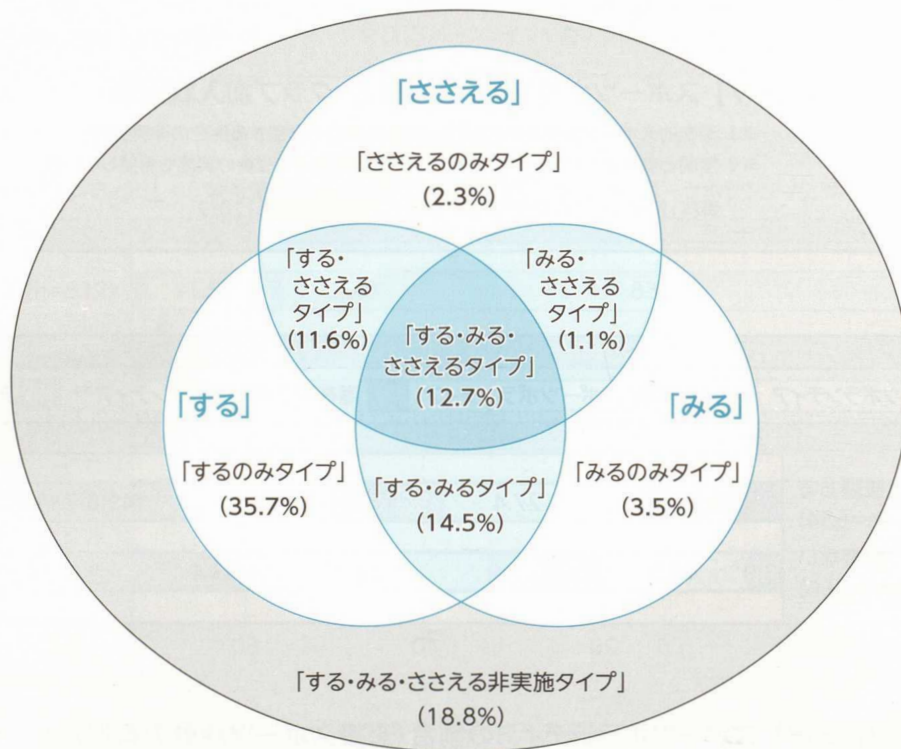
また、1つのみの活動を年1回以上実施している者は、「するのみタイプ」35.7%、「みるのみタイプ」3.5%、「ささえるのみタイプ」2.3%という結果であった。

ちなみに、3つのスポーツ活動を過去1年間にまったく

実施していない「する・みる・ささえる非実施タイプ」は18.8%と約2割であった。

図E-9に示すとおり、「するのみタイプ」が約36%と全体の1/3、次に2つの活動に着目すると「する・みるタイプ」「する・ささえるタイプ」が多い。すなわち、日本のスポーツ文化の享受スタイルとしては、スポーツをする行動が中心となっており、「する」行動と「みる」「ささえる」との個別関係が深い構造が示唆される。

この関係をふまえて「ささえる」という点に着目すると、「ささえるのみタイプ」は2.3%にすぎず、「する・みる・ささえるタイプ」12.7%、「する・ささえるタイプ」11.6%という結果から、「する」との運動において「ささえる」を展開している様子が見えてくる。さらにスポーツクラブ加入者のうち4割の者がスポーツボランティアの「無関心者」であるという結果を考え合わせると、まずはクラブ加入者において「する」を契機としていかに「ささえる」へと行動の領域を拡げていくかが今後の課題といえよう。



【図E-9】わが国における「する」「みる」「ささえる」からみたスポーツ文化享受構造 (n=2,000)

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2012